

2018 年度水産海洋学会研究発表大会

期日 : 2018 年 11 月 16 日 (金) ~18 日 (日)

会場 : 東京大学大気海洋研究所 (千葉県柏市柏の葉 5-1-5)

日程 :

11 月 16 日 (金)

12:00- 受付開始

13:00-17:15 シンポジウム (2 階講堂)

18:00-21:00 活性化委員会ナイトセッション (2 階 217 講義室)

11 月 17 日 (土)

09:00- 受付開始

10:00-12:00 口頭発表、ポスター展示、機器展示

12:00-13:40 機器展示、ポスター立会 (12:20-13:20)

13:40-17:00 口頭発表、ポスター展示、機器展示

17:15-18:00 宇田賞受賞記念講演

18:30-20:30 懇親会 (大気海洋研究所 1 階エントランスホール)

11 月 18 日 (日)

09:00- 受付開始

10:00-12:00 口頭発表、ポスター展示、機器展示

12:00-13:30 機器展示、ポスター立会 (12:20-13:20)

13:30-17:00 口頭発表、ポスター展示、機器展示

17:08-17:15 若手優秀講演賞表彰式

委員会等 :

学会賞受賞候補推薦委員会	11 月 16 日 (金)	11:30-12:45	3 階セミナー室
講演賞選考委員会	11 月 16 日 (金)	11:00-11:30	4 階セミナー室
	11 月 18 日 (日)	14:50-16:00	4 階セミナー室
活性化委員会	11 月 16 日 (金)	11:30-12:45	5 階セミナー室
活性化委員会ナイトセッション	11 月 16 日 (金)	18:00-21:00	2 階 217 講義室
評議委員会	11 月 17 日 (土)	12:10-13:30	2 階 219 会議室
国際誌委員会	11 月 18 日 (日)	12:10-13:00	3 階セミナー室

参加費 : 学生会員 5,000 円、正会員 6,000 円、非会員 7,000 円

シンポジウムは一般公開 (参加費不要)

開催要項ウェブページ : <http://lmr.aori.u-tokyo.ac.jp/jsfo2018/>

(水産海洋学会ホームページにリンク)

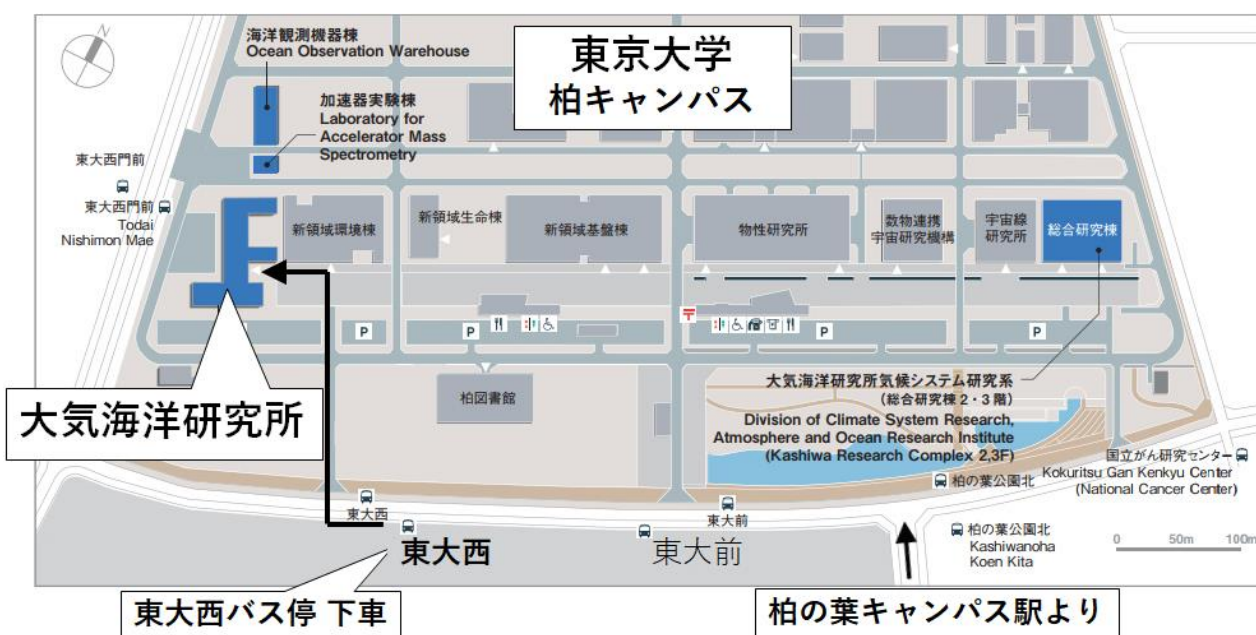
問合せ先 : 大会実行委員会事務局 jsfo2018_inqu@aori.u-tokyo.ac.jp

会場までのアクセス：

つくばエクスプレスの柏の葉キャンパス駅西口の「1番のりば」から下記のバスを利用し、「東大西」バス停で下車してください。所要時間は8～15分です。

西柏 03 流山おおたかの森駅東口行／西柏 03 東大西行／西柏 04 江戸川台駅東口／西柏 10 江戸川台駅東口行

*その他のルートは、<http://www.aori.u-tokyo.ac.jp/access/index.html> をご覧ください。



会場：

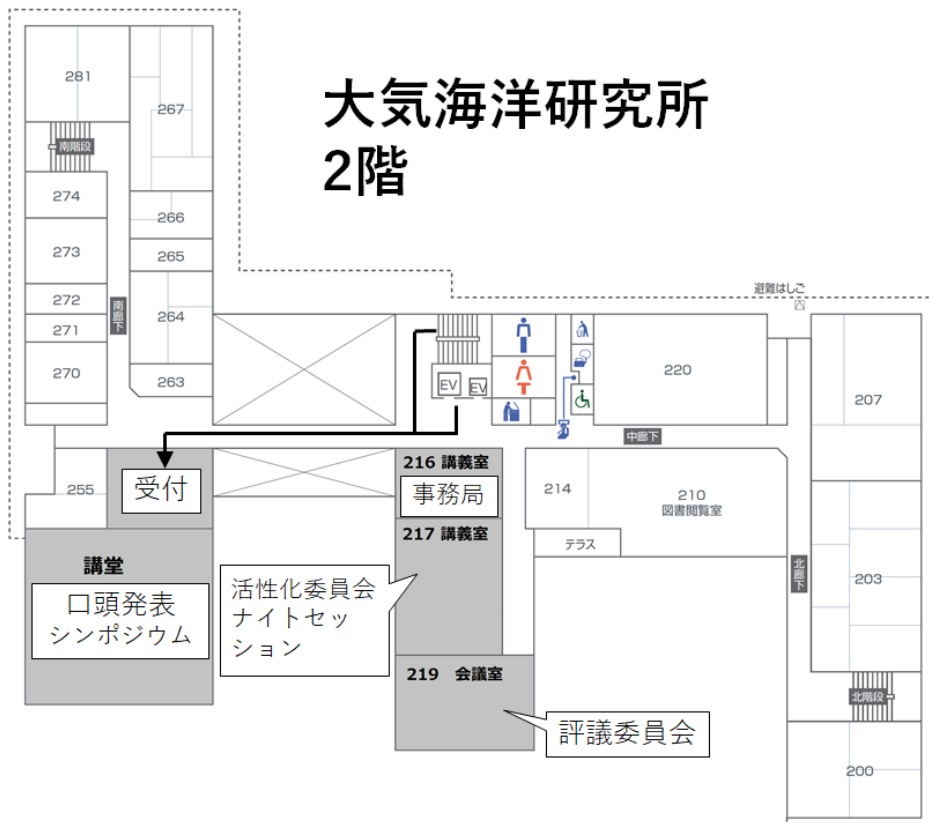
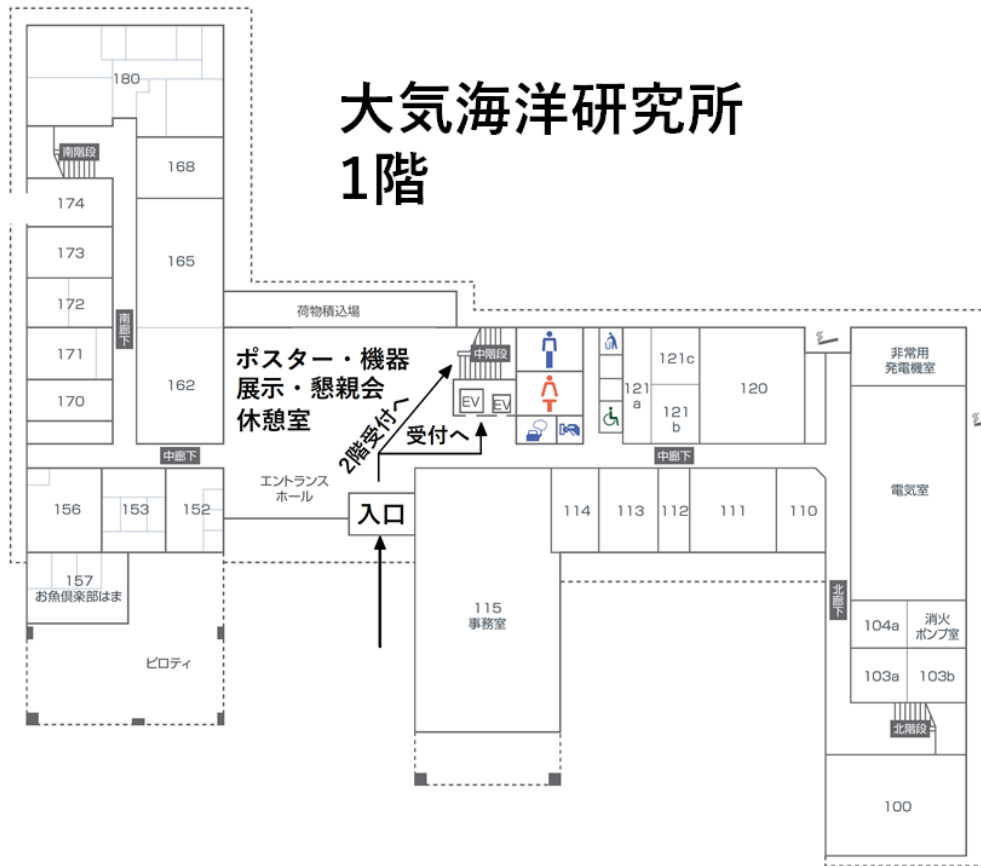
- 1階 エントランスホール：ポスター・機器展示会場、休憩室、懇親会会場
- 2階 講堂：受付、シンポジウム・口頭発表会場
講義室（216）：大会実行委員会事務局
講義室（217）：活性化委員会ナイトセッション
会議室（219）：評議委員会
- 3階 セミナー室（316）：学会賞受賞候補推薦委員会、国際誌委員会
女子休憩室（315）：育児休憩スペース
- 4階 セミナー室（416）：講演賞選考委員会
- 5階 セミナー室（516）：活性化委員会

懇親会：

11月17日（土）18:30～20:30 大気海洋研究所1階エントランスホール

終了後、柏の葉キャンパス駅までのバスを手配いたします。なお、当日の申込みも会費6,000円で受け付ける予定ですが、人数等の関係でお断りする可能性がありますのでご了承ください。

会場配置図：



研究発表大会プログラム

口頭発表

- (1) 発表時間は、質疑応答の2分を含めて1題につき12分以内です。なお、発表時間には発表者の交代に要する時間を含みます。
- (2) 使用機器は液晶プロジェクターです。
- (3) Microsoft Power Point 2016 をインストールしたパソコン (OS は Windows 10) を大会実行委員会で用意します。各自で事前に Windows 10 上の Power Point 2016 で発表ファイルが正常に動作することを確認して下さい。
- (4) 口頭発表ファイルを USB メモリに保存・持参して下さい。なお、ファイルは必ずウイルスチェックを行い、ファイル容量は可能な限り小さくして下さい。
- (5) 口頭発表ファイルは、次の時刻までに研究発表会場の受付にご持参下さい。その場での動作確認後、USB メモリをお返しいたします。
 - ・ 10:30 までの発表： 前日～当日の 09:30 まで
 - ・ 10:30～12:00 の発表： 当日の 10:00 まで
 - ・ 12:00～15:00 の発表： 当日の 12:30 まで
 - ・ 15:00 以降の発表： 当日の 14:30 まで
- (6) ファイル名は「講演番号 (半角) _名字 (漢字、外国人は半角アルファベット) として下さい ("_" は半角アンダースコア)。
- (7) 講演では、演者ご自身にパソコンを操作していただきます。
- (8) * は若手優秀講演賞審査対象の発表です。

11 月 17 日(土)

沿岸資源

座長 佐藤允昭 (水産機構水工研)

- 01* 10:00-10:12 波浪場におけるエゾアワビに作用する流体力が匍匐行動に及ぼす影響
○中谷 鷹・瀬戸雅文 (福井県大)・巻口範人 (道栽培公社)
- 02* 10:12-10:24 海水温変化がウバガイ浮遊幼生の遊泳・着底行動に及ぼす影響
○大久保 創平・瀬戸 雅文 (福井県大海洋)・巻口 範人 (道栽培)
- 03* 10:24-10:36 東京湾のトリガイ幼生の分布と貧酸素水塊
○宇都康行・大畑 聡 (千葉水研セ)

座長 田中伸幸（道総研稚内水試）

04* 10:36-10:48 イワガキ貝殻の酸素・炭素安定同位体比から推定した山形県遊佐町沿岸の海底湧水環境

○竹内 優・杉本 亮・石田健大・平井タケル・中島壽視・(福井県大)・小路 淳(東大大気海洋研)・本田尚美(福井県庁)・谷口真人(地球研)・富永 修(福井県大)

05 10:48-11:00 鶴川・沙流川河口沿岸におけるシシヤモ雌魚の成熟

○岡田のぞみ(道総研栽培水試)・高嶋孝寛(道総研水産研究本部)・石田良太郎(道総研さけます内水試)・石田宏一(北海道原子力環境センター)・工藤 智(道総研フェロー)

06* 11:00-11:12 日本海西部におけるマアジの発達に伴う生残過程の変化

○林 晃・北島 聡・高橋素光(水産機構西水研)

座長 平松 一彦（東大大気海洋研）

07 11:12-11:24 VPA 等の情報からみた近年の北海道日本海におけるホッコクアカエビの資源動向

○田中伸幸(道総研稚内水試)・中明幸広(道総研中央水試)

08* 11:24-11:36 奄美海域産スジアラの資源管理に向けた基礎生態研究3～双方向粒子追跡モデルによる産卵場推定～

○岩下航大・加古真一郎(鹿大工)・宍道弘敏(鹿児島水技セ)・広瀬直毅(九大応力研)

09 11:36-11:48 奄美海域産スジアラの資源診断

○宍道弘敏(鹿児島水技セ)・亘 真吾(水産機構中央水研)

10* 11:48-12:00 厚岸ニシンの回遊追跡と産卵保護の試み

○富安 信(北大北方セ)・小川真拓・押山大智(北大院環境)・白川北斗・宮下和士(北大北方セ)

12:00-13:40 休憩

沖合資源

座長 加 三千宣（愛媛大沿岸環境）

11* 13:40-13:52 水温や餌料環境がサケ稚魚の代謝速度を介した成長速度に与える影響

○飯野佑樹・阿部貴晃・北川貴士(東大大気海洋研)・長坂剛志・清水勇一・太田克

彦（岩手水技セ）・川島拓也（岩手内水技セ）・河村知彦（東大大気海洋研）

- 12 13:52-14:04 東北沖南部の震災前後における底魚群集の分布密度の変化
○米崎史郎（水産機構国際水研）・服部 努（水産機構本部）・成松庸二（水産機構東北水研）
- 13 14:04-14:16 沖合底びき網漁業を支援する底魚資源管理支援システムの開発
○佐野 稔・鈴木祐太郎（道総研稚内水試）・和田雅昭（はこだて未来大）・畑中勝守（東京農大）・田村浩・鎌田広（NJC）

座長 米崎史郎（水産機構国際水研）

- 14* 14:16-14:28 北太平洋におけるビンナガの分布の時空間変動とその環境変動との関係
○中津川賢人（東大大気海洋研）・清藤秀理（水産機構国際水研）・木村伸吾（東大大気海洋研）
- 15 14:28-14:40 過去数千年間の日本マイワシ・カタクチイワシの長期変動
○加三千宣（愛媛大沿岸環境）・山本正伸（北大地球環境）・別府湾堆積物研究プロジェクト・杉本隆成（東海大海洋研）
- 16* 14:40-14:52 日本系サケの成長を通じた生態系サービスの定量的評価
○柄沢有香・上野洋路（北大院水）・谷杉 諒（北大水）・尹 錫鎮（韓国水産科学院）・笠井亮秀（北大院水）・清田雅史（長大院水）

沿岸資源

座長 渡慶次 力（宮崎水試）

- 17 14:52-15:04 瀬戸内海播磨灘域におけるアイゴの移動と成長，産卵
○山本昌幸（香川水試）・元谷 剛（岡山水研）・棚田教生（徳島農水総技セ）・小林靖尚（近大農）・片山知史（東北大院農）

15:04-15:20 休憩

- 18 15:20-15:32 バイオロギングを活用したトラフグ産卵環境の推定
○平井慈恵・奥谷健太（水産機構瀬水研）・Sara Gonzalvo・森 航大・高柳和史（三洋テクノマリン）・赤井紀子（香川水試）・白川北斗・宮下和士（北大北方セ）
- 19 15:32-15:44 東京湾のタチウオの成長と餌料環境

○岡部 久（神奈川水技セ）・斎藤真美（水土舎横浜）

20 15:44-15:56 丹後海におけるヒラメ仔稚魚の出生地の推定-耳石安定同位体比と日齢
査定によるアプローチ-

○岡田恵治・木村伸吾（東大大気海洋研）・澤田英樹 ・鈴木啓太 ・山下 洋（京大
フィールド研セ）

座長 林 晃（水産機構西水研）

21* 15:56-16:08 海域の地形特性がマコガレイの空間的な遺伝構造と移動分散スケール
に与える影響

○佐藤允昭（水工研）・浜口昌己（瀬戸内水研）・北西 滋（大分大）・畔地和久（大
分県）・石井光廣（千葉県）・大美博昭（大阪府）・菊池康司（神奈川県）・清水孝昭
（愛媛県）・辻村浩隆（大阪府）・中力健治（岡山県）・馬場俊典（山口県）・宮内正
幸（福岡県）・山本宗一郎（大分県）・山本昌幸（香川県）・堀 正和（瀬戸内水研）

22* 16:08-16:20 水温と塩分がニホンウナギの環境 DNA 放出量に及ぼす影響

○高田真悟（北大水）・高橋さやか・益田玲璽（京大舞鶴水産）・笠井亮秀（北大院
水）

23* 16:20-16:32 相模湾・相模灘沿岸マアジの成長と耳石伸長

○高村正造（神奈川水技セ相模湾試）・鈴木勇己（静岡水技研伊豆分場）・荻原真我
（神奈川水技セ相模湾試）・渡邊千夏子・古市 生（水産機構中央水研）

24* 16:32-16:44 リッジ VPA を用いたマサバ太平洋系群の資源評価

○西嶋翔太・由上龍嗣・市野川桃子・岡村 寛（水産機構中央水研）

25 16:44-16:56 MSY を目指した順応的管理にむけて：我が国資源への適用可能性

○市野川桃子・岡村 寛（中央水研）

宇田賞記念講演

17:15-18:00 亜寒帯域における多獲性底生魚類の生活史の解明と資源変動機構に関する研究

高津哲也（北大院水）

懇親会

18:30-20:30 大気海洋研究所 1 階エントランスホール

11月18日(日)

魚類

座長 田所和明 (水産機構東北水研)

- 26* 10:00-10:12 小規模河川の河川構造の違いによるニホンウナギの分布と成長
○上田萌人 (東大院農)・木村伸吾 (東大大気海洋研)
- 27 10:12-10:24 道東太平洋沿岸へのイシイルカ来遊量変動-航空目視調査の結果
○金治 佑・吉田英可・岡崎 誠 (水産機構国際水研)
- 28 10:24-10:36 諫早湾干拓調整池のエツの年齢組成と耳石による有明海産との識別
○城内智行・望月佑一・宇野潔・柴田幸次 (九環協)
- 29* 10:36-10:48 房総沖で採集したマサバ仔稚魚と鹿島灘で採集したマサバ幼魚の初期成長速度差
○多賀 真 (茨城水試・京大フィールド研)・山下 洋 (京大フィールド研)
- 30 10:48-11:00 小型浮魚類の生活史における密度効果の判別: 卵生産と卵から加入までの生残
○高須賀明典 (水産機構中央水研)・米田道夫 (水産機構瀬水研)・大関芳沖 (水産機構本部)

海況

座長 笥 茂穂 (水産機構東北水研)

- 31* 11:00-11:12 HF レーダー解析に基づく相模湾の流動変動とその水産資源への影響
○阿部英晃 (東大院農)・木村伸吾 (東大大気海洋研)
- 32 11:12-11:24 道東沿岸域における天文潮位を用いた日周潮流予報の可能性
○佐藤政俊・奥村裕弥 (道総研中央水試)・西田芳則 (道総研函館水試)
- 33 11:24-11:36 サンマ主要漁期における近年の北太平洋西部亜寒帯循環
○黒田 寛・巢山 哲・宮本洋臣 (水産機構東北水研)・瀬藤 聡 (水産機構中央水研)
- 34* 11:36-11:48 秋季の道東陸棚上の海洋構造-高密度観測が捉えた極端現象-
○唐木達郎・黒田 寛・谷内由貴子・葛西広海・岡本七海 (水産機構北水研)
- 35 11:48-12:00 三陸常磐沿岸水温を用いたマサバ定置網漁期予報の web 公開に向けて
○横内克巳・奥西 武・長谷川大介・笥 茂穂 (水産機構東北水研)・今村 豊 (青森水総研)・児玉琢哉 (岩手水技セ)・佐伯光広 (宮城水技セ)・真壁昂平 (福島海洋研)・外山太一郎 (茨城水試)・東屋知範 (水産機構北水研)

12:00-13:30 休憩

卵稚仔・プランクトン

座長 高須賀明典（水産機構中央水研）

- 36* 13:30-13:42 マサバ・マイワシ仔魚の遊泳速度に及ぼす成長速度の影響
○中村政裕（水産機構瀬水研）・入路光雄・米田道夫（水産機構中央水研）
- 37* 13:42-13:54 マアジ卵稚仔の黒潮域沿岸への輸送過程 –漁獲資料解析による推定–
○石川和雄・伊藤幸彦（東大大海研）・渡邊千夏子・亀田卓彦（水産機構中央水研）・
福元亨介（鹿児島水技セ）・渡慶次 力・堀江ひかり（宮崎水試）・橋田大輔（愛媛
水研セ）・大河俊之（高知水試）・武田崇史（和歌山水試）・久野正博（三重水研）・
鈴木勇己（静岡水技研）・高村正造（神奈川水技セ）
- 38* 13:54-14:06 冬季黒潮・黒潮続流域におけるサンマ仔稚魚の分布
○富士泰期（水産機構国際水研）・宮本洋臣・阿保純一（水産機構東北水研）・高須賀
明典（水産機構中央水研）

座長 山本光夫（東大海洋アライアンス）

- 39 14:06-14:18 北海道函館湾周辺海域におけるアイナメ仔稚魚の食性と成長
○高崎貴滉（北大院水）・中津川賢人（北大水）・中屋光裕・高津哲也（北大院水）
- 40 14:18-14:30 植物プランクトン群集組成をトレーサーとした秋の道東沿岸海域の水
塊分布
○谷内由貴子・黒田 寛（水産機構北水研）・伊佐田智規（北大北方セ）・芳村 毅（北
大院環境）・葛西広海（水産機構北水研）
- 41* 14:30-14:42 夏季の北太平洋移行域における・植物プランクトン群集組成
○渡辺 剛・宮本 洋臣（水産機構東北水研）・谷内由貴子（水産機構北水研）・巢山
哲・富士泰期（水産機構国際水研）・葛西広海（水産機構北水研）・田所和明（水産
機構東北水研）

海況

座長 田中雄大（水産機構東北水研）

- 42 14:42-14:54 岩手県沿岸域のワカメ養殖場への栄養塩供給予測
○筧 茂穂（水産機構東北水研）・内記公明・児玉琢哉（岩手水技セ）・和川 拓（水

産機構日水研)・黒田 寛 (水産機構北水研)・伊藤進一 (東大大気海洋研)

43 14:54-15:06 2017～2018年の根岸湾における貧酸素水塊の動態

○草野朱音 (神奈川水技セ)

15:06-15:20 休憩

44 15:20-15:32 伊勢・三河湾及び渥美外海における海況と資源の長期変動

○中村元彦 (愛知水試)・大古田達也 (愛知水振基)

45 15:32-15:44 伊勢湾の流動構造と貧酸素水塊及びクロロフィル a の分布について

○林凌太郎・下村友季 (愛知水試 漁生研)

座長 渡辺 剛 (水産機構東北水研)

46 15:44-15:56 播磨灘・大阪湾における水温変動について

○牧 秀明 (国立環境研)・秋山 諭・中嶋昌紀 (大阪府環境農林水産総合研究所水産技術センター)・横山亜紀子・吉成浩志・東 博紀・金谷 弦・越川 海 (国立環境研)

47 15:56-16:08 宮崎県の沿岸資源変動における豊後水道の重要性

○渡慶次 力・中西健二・外山寛隆 (宮崎水試)

48 16:08-16:20 気象データを利用した機械学習・深層学習による八代海の赤潮予測

○庄野 宏 (鹿大共通教育セ)・西 広海・高杉朋孝・宮田翔也・森島義明 (鹿児島水技セ)

座長 黒田 寛 (水産機構北水研)

49 16:20-16:32 水塊クラスター解析ソフトの開発と東北近海の水塊・漁況変動解析への適用 -事例解析-

○田中雄大 (水産機構東北水研)・今村 豊 (青森水総研)・児玉琢哉・及川利幸 (岩手水技セ)・矢倉浅黄 (宮城水技セ)・佐伯光広・真壁昂平 (福島水海研セ)・鈴木裕也 (茨城水試)・大畑 聡 (千葉水研セ)・長谷川大介・金子 仁・笥 茂穂・岡崎雄二 (水産機構東北水研)・黒田 寛 (水産機構北水研)・和川 拓 (水産機構日水研)・奥西 武 (水産機構東北水研)

50 16:32-16:44 日向灘沖の巻き網漁業を対象とした漁場推定モデルによる意思決定ツールの試作

○五十嵐弘道・田中祐介・石川洋一 (JAMSTEC)・渡慶次 力・堀江ひかり (宮崎水

試)

51 16:44-16:56 三陸沖におけるアカイカ漁場予測方法の一提案

○齊藤誠一・Irene Alabia (北大北極セ)・高橋文宏 ((株) G&LI)・五十嵐弘道・石川洋一・蒲地政文 (JAMSTEC)・今村 豊 (青森水総研)

52 16:56-17:08 対馬海域における環境変動理解に向けた粒状有機物起源の検討

○山本光夫 (東大海洋アライアンス)・山口 聖 (佐賀有明水振セ)・竹茂愛吾 (水産機構国際水研)・劉 丹 (有明高専)・木村伸吾 (東大院新領域/東大大気海洋研)

若手優秀講演賞表彰式

17:08-17:15

ポスター発表

ポスター掲示期間： 11月17日 10:00～11月18日 15:00

発表者立会会説明： 11月17・18日 12:20～13:20

- (1) A0サイズのポスターを貼り付けられるスペースと画鋏などを用意いたします。
- (2) ポスターの貼り付けは、11月17日 10:00 から可能です。
- (3) 11月17日 12:20-13:20 に奇数の講演番号, 11月18日 12:20-13:20 に偶数の講演番号の立会説明をお願いいたします。
- (4) 11月18日 17:30 までに各自で撤収して下さい。これ以降に残されたポスターは実行委員会で処分いたします。
- (5) * は若手優秀講演賞審査対象です。

P01 パルス変調型蛍光光度計を用いた大阪湾における基礎生産の推定

○山本圭吾 (大阪環農水研)・宮原一隆 (兵庫農水技総セ)・阿保勝之 (水産機構瀬水研)・小原静夏・小池一彦 (広大院生物圏)

P02 秋季の黒潮周辺海域における仔稚魚を支える食物網構造

○岡崎雄二・宮本洋臣 (水産機構東北水研)・福田秀樹・齊藤宏明 (東大大気海洋)

P03* 備讃瀬戸海域におけるフグ類産卵床探索の試み

○奥谷健太・片町太輔 (水産機構瀬水研)・赤井紀子 (香川水試)・平井慈恵 (水産機構瀬水研)

P04* 耳石酸素安定同位体比を用いたマアジ稚魚の近底層移行時期の推定

○榎本めぐみ・伊藤進一 (東大大気海洋研)・高橋素光・佐々千由紀 (水産機構西海)

水研)・樋口富彦・白井厚太郎(東大大気海洋研)

P05 猪串湾における有毒渦鞭毛藻類 *Gymnodinium catenatum* と *Alexandrium catenella* の発生動態

落合夏子・○杉本 亮(福井県大)・宮村和良(大分県庁)・大竹周作(大分水試)

P06 耳石酸素安定同位体比分析を用いたクロマグロの経験水温推定

○鈴木沙知(東大院新領域)・木村伸吾(東大大気海洋研)

P07 日本海における繁殖期のクロマグロの行動特性

○高原佑太・米山和良(北大院水)・藤岡 紘(水産機構国際水研)

P08* 北海道北部に生息するイトウの成長特性と回遊パターン

○鈴木享子(東大院農・学芸大環境教育)・川原満(イトウ生態保全ネットワーク)・藤本信治(オホーツク活魚)・河口洋一(徳島大院理工)・清水泰(猿払村漁協)・永井英俊(猿払鮭鱒)・吉富友恭(学芸大環境教育)・江戸謙顕(文化庁)・山川卓・大竹二雄(東大院農)

P09 環境 DNA によるニホンウナギの分布域の推定

○笠井亮秀(北大院水)・定行洋亮(東大院新領域)・高田真悟(北大水)・安孝珍(京大森里海ユニット)・山崎彩(北大北方セ)・久米 学(京大フィールドセ)・寺島佑樹(京大森里海ユニット)・東 信行(弘前大農生)・今藤夏子・亀山 哲(環境研)・木村伸吾(東大大気海洋研)・山中裕樹(龍谷大理工)・益田玲爾(京大舞鶴水産)・山下 洋(京大フィールドセ)

P10 新潟県沿岸域におけるサザエ *Turbo cornutus* の成長と移動

○濱岡秀樹(新潟水海研)・石本綾子・池田大悟(新潟県)

P11 常磐海域におけるマコガレイの成熟特性

○富山 毅(広大)・栗田 豊(東北水研)・天野勝文(北里大海洋)

P12* 薩南海域の旋網におけるゴマサバ漁況予測手法の検討

○福元亨介(鹿児島水技セ)・黒田啓行(水産機構西海水研)

P13 北海道古平・積丹地区における一般化線形モデルを用いたホソメコンブ群落分布予測およびウニ除去効果の推定

○南部亮元(水研機構水工研)・干川 裕・福田裕毅・高谷義幸(道総研中央水試)・秋野秀樹(道総研稚内水試)・梶原留美子(寒地土研)・森口朗彦・桑原久実(水研機構水工研)

P14 酸化還元電位からみた東京湾における無酸素水塊の分布

○石井光廣・宇都康行・中丸 徹・林 俊裕(千葉水研セ)

- P15 対馬海峡を經由し日本海へ供給される栄養塩の年々変動及び生態系への影響評価
○柴野良太・森本昭彦（愛媛大沿岸セ）・高山勝己（九大応力研）・滝川哲太郎（長大水）・伊藤 雅（水産機構日水研）
- P16* 大阪湾における表層堆積物環境の変遷
○秋山 諭・上田真由美・田中咲絵・横松宏幸・曾根耕治（大阪環農水研）・中谷祐介・西田修三（大阪大院工）
- P17 宮崎県大淀川における 2002 年のウナギシラス来遊卓越と沖合海洋環境
○青木一弘・山本敏博・福田野歩人・横内一樹・黒木洋明・瀬藤 聡・亀田卓彦（水産機構中央水研）・黒田 寛（水産機構北水研）・高藤和洋（宮崎県内水面振セ）・渡慶次 力（宮崎水試）
- P18 日向灘で漁獲されるサバ類の漁獲特性について
○堀江ひかり（宮崎水試）
- P19* 2018 年漁期の房総以北におけるマイワシ北上期の特徴
○藤井椋子・渡邊一功・松尾 豊・谷津明彦（JAFIC）
- P20 近年の対馬海域におけるマサバ漁況について
○渡邊一功・藤井椋子・松尾 豊・谷津明彦（JAFIC）